

総評（コメント）（協働事業選考委員会志村委員長）

日常知りえない協働事業の実態を報告いただいた。これから社会問題として増えていく大きな事業についてだった。認知症の人、障害のある人の確かな生活のために、きめの細かい、市民からできる丁寧な仕事だ。確かに市だけではできない心温まる仕事を聞かせていただいた。選考委員5人が聞いているだけではもったいなく、全市民に、市内ではこういう動きがあると知ってもらいたい。2年目ということもあり、1年目と違うところをお聞きしたが、皆さんがやっていて感じることで、悩むことのひとつひとつの経験から、私たちが学ぶことは多いと思う。

鎌倉でもこういうことが起こっているという話を広め、賛同を得られた人にはお手伝いいただければ、先ほどの認知症相談事業の地域で支えるという話に発展していく。

また、就労支援事業は、企業がどんどん雇うというような話になってくれる社会を作るためには、困難があっても、その時にこうすればよいという経験を皆さんが理解することで賛同してくれる。

次へ広がる経験を生かし、社会、市民が学ぶ形で成果を引き渡せれば、想像以上の発展へとつながる。2事業とも今年度が最後の1年になるが、この経験の伝承と次への課題に対するアピール、広い意味での社会や市民に対する報告をしていただければ次につながっていくという気がする。我々もそういう意味では、審査員として、行政として、市民として考えるきっかけを学ばせていただいた。1年後、最後の報告を楽しみにしている。